

Tamura Future ワークショップ 最終報告

～「まちづくりを“ジブンゴト”に」。これからの田村市を描くワークショップ～

これからのまちづくりには市民参画が必要不可欠であり、積極的に参画できるワークショップでまちづくりのアイデアを検討し、協働のきっかけづくりにつなげます。また、「まちの未来について考えてみる」「地域のイベントに参加してみる」といった一人ひとりの小さな一歩が、まちにとって大きな変革を生みだします。

1 実施概要

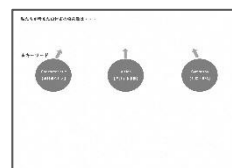
実施目的	将来像の検討とまちづくりについての評価、まちづくりへの関心の醸成
実施時期/ 参加人数	令和3年2月～令和3年12月まで計7回 ※ 新型コロナウイルス感染症拡大のため、3月、5月、8月、9月は中止
	第1回：2月28日（日） 13：00～15：00 53名
	第2回：4月25日（日） 8：30～12：00 44名
	第3回：6月27日（日） 10：00～12：00 40名
	第4回：10月3日（日） 10：00～12：00 36名
	第5回：11月7日（日） 10：00～12：00 34名
	第6回：11月28日（日） 10：00～12：00 34名
	第7回：12月19日（日） 9：30～12：00 39名
実施時間	1回につき2時間程度（第2回のみフィールドワークのため、午前半日）
実施場所	田村市役所 多目的ホール/市内の施設等

2 参加者と募集方法

区分	募集方法
①コアメンバー	協働による活動実績をふまえ、各課へ対象者の推薦を依頼。
②団体・ネットワーク	団体ヒアリング調査や①からつながりでチラシにより協力を依頼。
③高校生・大学生・専門学校生	船引高校、こおりやま広域圏内高校、福島大学、FSG専門学校に協力を依頼。
④公募	市民アンケート調査や市HP、広報紙等多様な機会を通じて参加者を募集。応募者多数だったため、抽選を実施。 （田村市内在住または通学・通勤している18歳以上の方）
⑤市職員	若手職員（ワーキングチーム）の参画を依頼。 ※ 第1回、第3回、第5～6回では、各部取り組み等を説明

3 プログラム

第1回	テ ー マ :	「田村市」ってどんなまち？
	目的 :	総合計画への理解と市の現状の整理・把握
	実施内容 :	(市の現状や総合計画の概要説明) ①「田村市の良いところ、困っているところ」を付せんに書いてもらう ②書いた付せんを田村市の地図の該当する箇所に貼ってもらう ③各部の取り組み説明(市職員)
	計画への反映 :	まちの現状として反映
第2回	テ ー マ :	実際に「田村市」を見てみよう！
	目的 :	実際にまち歩きし、「田村市」の魅力の再発見・共有
	実施内容 :	①市役所に集合し、フィールドワークコースへ移動 ②公共施設や観光施設等を見学する。
	計画への反映 :	第4～6回に向けた事前学習
第3回	テ ー マ :	「田村市」、どんなまちにしたい？
	目的 :	これからの田村市のキーワード抽出
	実施内容 :	(市民アンケート調査結果の報告) ①ワークシートを使って、田村市のキーワードを考えてもらう。 ②ワークシートのキーワードを基に各グループで将来像(キャッチフレーズ)を考えてもらう ③各部の取り組み説明(市職員)
	計画への反映 :	将来像作成の際の参考とする
第4回	テ ー マ :	SDGsとは？【国立環境研究所様より講演】
	目的 :	「SDGs」について学ぶ、分野別の課題や取り組み検討に向けた視点の共有
	実施内容 :	①国立環境研究所様より講演 ②国立環境研究所様の運営によるグループワーク ③次回予告
	計画への反映 :	次回以降の分野別の課題や取り組み検討に向けた事前学習



第5・6回	テ ー マ：	「田村市」を見つめてみよう
	目的：	市民が感じている課題や今後必要な取り組みの抽出
	実施内容：	①ワーキングチーム職員より各分野のテーマ（説明の中で現状・課題に言及）を会場全体に説明。 ②説明を聞いたうえで、各分野で設定したテーマ（3～4つ）について、グループで自由に意見交換をする。右のワークシートはメモや意見のとりまとめに使用。 ※各回の分野については、第5回は「コミュニティ・行政経営」/「住環境」、第6回は「産業振興」/「学校教育・生涯学習」/「健康・医療・福祉」
	計画への反映：	基本計画策定の基礎資料とする

ワークシート【 分 野 】

①

②

③

第7回	テ ー マ：	私たちには何ができるだろう？
	目的：	市民のまちづくりへの意識醸成、WSの振り返り
	実施内容：	①これまでのWSを振り返りながら、グループごとに決められた1分野について、自分たちができることについて意見を出し合う。 ※第1回～第6回までの意見を事務局で分野ごとに事前に割り振り、オリエンテーションで振り返り ※分野については、第5～6回の5分野を各グループに割り振り。
	計画への反映：	市民の役割として基本計画に記載

ワークシート【 分 野 】

【第1～第6回】 この分野のまちづくりの思いをここに書いておく（当日記入可）

事前に記入（当日追加記入可）

事前に記入（当日追加記入可）

事前に記入（当日追加記入可）

その中で、記入し「意見・相談・質問・要望」を……

当日、各グループで記入

に記入します。

4 第1回WS (2/28)

(1) 実施概要 (P2 より)

第1回	テ ー マ :	「田村市」ってどんなまち？
	目的 :	総合計画への理解と市の現状の整理・把握
	実施内容 :	(市の現状や総合計画の概要説明) ①「田村市の良いところ、困っているところ」を付せんに書いてもらう ②書いた付せんを田村市の地図の該当する箇所に貼ってもらう ③各部の取り組み説明 (市職員)
	計画への反映 :	まちの現状として反映

(2) 実施結果 (一部抜粋)

良いところ

- ・ 自然が豊か
 - ・ 子育てしやすい
 - ・ 人情味がある、つながりがある
 - ・ 観光資源が豊富 (場所や食べ物)
 - ・ 災害が少ない、地盤が強い
 - ・ 交通アクセスが良い
- 等

困っているところ

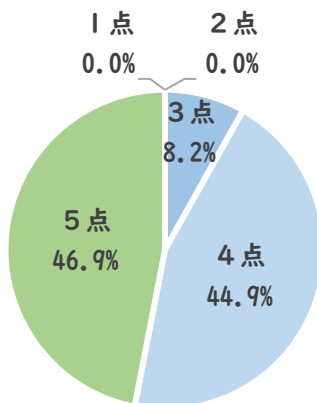
- ・ 空き家が多い、街灯が少ない
 - ・ 子どもの遊び場が少ない、少子化
 - ・ 若年層の流出、農業の担い手不足
 - ・ 働く場が少ない、地元企業の減少
 - ・ 商店街の活性化
 - ・ 車がないと不便、駅が寂しい
- 等



(3) 参加者アンケート調査結果

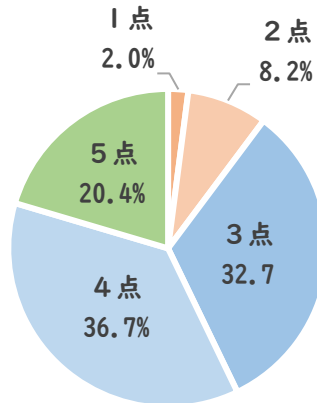
①ワークショップへの満足度

(1点:全然楽しなかった
→5点:とても楽しかった)



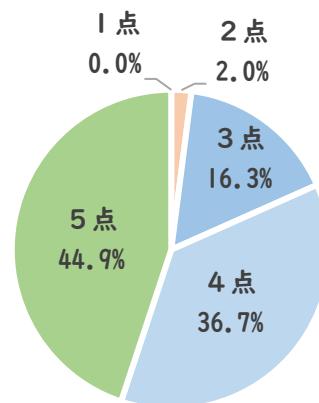
②市への愛着や誇り

(1点:全然感じない
→5点:とても感じている)



③まちづくりへの関心

(1点:関わりたくない(関われない)
→5点:積極的に関わりたい)



④参加した感想(一部抜粋)

- ・幅広い意見が飛び交って活気的なワークショップでとても良かった。(老若男女混じりの意見交換良かったです)
- ・幅広い世代の人のコミュニケーションをとったり、田村市について語ることができて楽しかったです！自分一人じゃ分らなかったことも様々な意見や見方、考え方ができて勉強になりました。
- ・自分と世代、性別の違いがある人たちと話し合いができて良かった。自分と違う方向から見た田村市は、良い点もたくさんあって良かった。コロナ対策もしっかりしてあって不安も感じなかった。
- ・このイベントがなかったら関わる事がなかったような人達と交流が出来て楽しかった。
- ・田村市の良いところを改めて気付くことができた。また、いろいろな方々とお話する機会があって良かった。
- ・しばらくぶりにたくさんの人達に会えてとても楽しかったです。いろんな考えを持っている人がいてびっくりしました。コロナのことなんか忘れそうでした。
- ・第1回でありましたがアットホームな雰囲気で活発な話し合いができました。次回がとても楽しみです。田村市について、新たな自信と誇りを持つことができました。
- ・真剣に考えている方が多く、とても参考になった。アットホームな雰囲気の良いワークショップでしたが、今後10年の計画に本当につながるのが大切で開催の既成事実だけにならないことを期待しています。
- ・思っていたほど堅い雰囲気ではなく、リラックスした雰囲気での話し合いができ、良かった。

5 第2回WS (4/25)

(1) 実施概要 (P2 より)

第2回	テ ー マ :	実際に「田村市」を見てみよう！
	目的 :	実際にまち歩きし、「田村市」の魅力の再発見・共有
	実施内容 :	①市役所に集合し、フィールドワークコースへ移動 ②公共施設や観光施設等を見学する。
	計画への反映 :	第4～6回に向けた事前学習

※ フィールドワークコース

滝根・大越コース	都路コース	常葉・船引コース
市役所 集合・出発		
移動	移動	移動
ニューフロンティア(株) 視察	空き別荘エリア 視察	スカイパレスときわ 視察
移動	移動	移動
がもう農園 視察	亀石 視察	アニマルフォレストうつしの森 視察
移動	移動	移動
田村市パークゴルフ場 視察	グリーンパーク都路 視察	
移動	移動	
テラス石森 視察		
移動		
市役所 到着・解散		

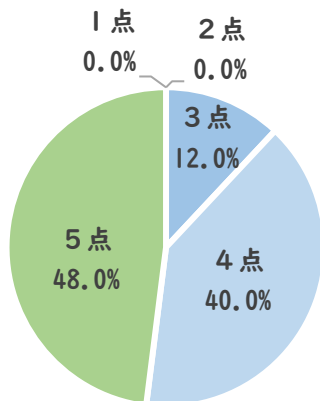
(2) フィールドワークの様子



(3) 参加者アンケート調査結果

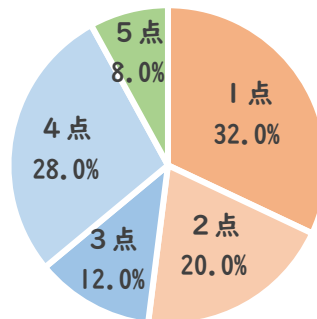
①ワークショップへの満足度

(1点:全然楽しなかった→5点:とても楽しかった)



②視察先での取り組み紹介について

(1点:とても分かり易かった→5点:分かりにくかった)



③各視察先への意見(一部抜粋)

●滝根・大越コース

	ニューフロンティア(株)	がもう農園	田村市パークゴルフ場
感じた魅力・期待	- 生産工程が見れて安心してきたのでぜひ購入したい。 - 自分たちで出来ること常に取り組んでいる。人工化できるようになれば素晴らしい	- 出荷せずに100%自己販売が特徴でこだわりの強さを感じた。 - 生産者の顔と意思が見える形成は安心感と信頼につながっている。	- 多世代交流の場。 - 一日ゆっくり田村市で過ごすため、食事・入浴施設と連携できたらもっと田村市を好きになれると思います。
課題・改善点	- 福うなぎ=田村市と連想しづらいので「田村の福うなぎ」と田村市の名前が入ってはどうか。 - ブランドの知名度アップ。	- 気軽に買える場所、申し込み方法の情報周知。 - 市場拡大と経営負担軽減の対策。	- 食事、観光施設との連携。 「パークゴルフ」について若い世代の人は知らない人が多いと思う。
意見・アイデア	- うなぎのキャラクターを作って「福うなぎ」の知名度を上げる。 - 定期的に給食に出して子供に味を覚えてもらう。	- 買いに行ける場所やイベントの情報があるとよかったという意見があった。 - PRをもっと行う。Webで販売状況を知らせる。	- パークゴルフの普及活動を自治会や学校、企業に出前講座を行う。 - ピクニックエリアや子供の遊具エリアなどがあると長時間いられそう。

●都路コース

	空き別荘エリア	亀石	グリーンパーク都路
感じた魅力・期待	・いずれも「点」ではなく「面」で検討する必要があるだろうと思う。 ・定住・移住ができる環境がある。	・見せ方次第で観光地になり得る。 ・亀石の迫力がすごかったです。	・ホップづくりだけでなくマルシェやロッジなどいろんな可能性があるのだなと感じました。 ・場所もアイデアも素晴らしかったが何より本間社長の熱意がすごかった。
課題・改善点	・どうやって(移住定住を)促進できるか。 ・老朽化がかなり進んでいるのが気になった。	・亀にストーリーを作って見せ方伝え方を考える。 ・他のおすすめスポットと合わせたルート作りやプラン等作るのも良いと思いました。	・もっと多くの人に知っていただく必要がある。 ・関わる人を増やす。
意見・アイデア	・県外に発信を続けていけば売れるかも。 ・コロナで林間学校とか行けない子供たちに少人数で貸す、もしくは開放	・大きい石の隣まで登って記念撮影したらとても良い写真になって面白いなと思いました。 ・亀石の伝説、ジンクス、亀神社など作る。	・田村市外の中高生が親の力を借りずともキャンプできたら楽しいだろうなと思いました。 ・マルシェにてフリーマーケットもやってみたいと思った。

●常葉・船引コース

	スカイパレスときわ	アニマルフォレストうつしの森
感じた魅力・期待	・カブトムシだけではなく、景色を売りにしたPR(雲海等)さらに拡大することで、幅広い年代の客層を掴むことができるのではないかと感じた。家族・友人等と楽しめるレジャー施設として、多くの集客が見込めるのではないかと期待する。	・動物がここらへんに今いるのはうつしの森だけだから来場客は必ず上がる。 ・移の所は未来の田村に大切に育てたい。
課題・改善点	・どうすれば来客が増えるか。 ・これから更に知名度を高めるための宣伝、SNSなど。	・同志を募って音楽イベントなど楽しい場所になれるように。 ・場所がわかりづらい。人員不足。更なる情報発信。
意見・アイデア	・学生に向けてPRを。 ・毎年様々な企画を立案し、去年は震災前よりも多くの集客を得たと知り、運営側の努力を感じた。	・積極的な県外からのツアー(他県からも知ってもらうため)。 ・キャンプ場について、若者(女子等)も気兼ねなく利用できる設備の整備(トイレ・風呂・手洗い場等)

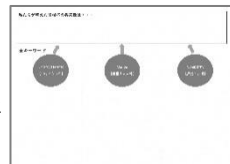
●テラス石森

感じた魅力・期待	・魅力的な施設なのでもっと認知度を上げたいです。 ・地域に内在する文化的価値等の掘り出しと発信。多様な産業間のネットワーク構築とコラボレーション企画。	・自分たちの”したい”を形にしていること。 ・取り組んでいる事業内容も若い方々が中心となって町を盛り上げていこうとする意欲を感じました。”街づくりの総合商社”
課題・改善点	・何となく一般の人にとっては、近づきたい雰囲気がある。	・市内と市外の交流を活発にして未来の田村市のためにガンバってほしい。
意見・アイデア	・もっと一般の人達に広めることが大事	・市民の多くの人達と交流して新しい産業文化利用してほしい。

6 第3回WS (6/27)

(1) 実施概要 (P2 より)

第3回	テ ー マ :	「田村市」、どんなまちにしたい？
	目的 :	これからの田村市のキーワード抽出
	実施内容 :	(市民アンケート調査結果の報告) ①ワークシートを使って、田村市のキーワードを考えてもらう。 ②ワークシートのキーワードを基に各グループで将来像(キャッチフレーズ)を考えてもらう ③各部の取り組み説明(市職員)
	計画への反映 :	将来像作成の際の参考とする



(2) 実施結果 (一部抜粋)

①キーワード

Characteristic 【田村市らしさ】	Vision 【目指す未来像】	Sympathy 【共感・共鳴】
・自然豊か、人情深い ・やりたいことを応援してくれる ・合併前の町村の特色 ・多様性の教育、柔軟な教育ができる ・一つ一つの光るものがあるが、統一性がない 等	・若者に魅力が伝わるまち ・市民が活躍、皆が共に輝ける ・多様性 ・常にチャレンジ精神をもつ ・既存の企業と誘致企業の共存 等	・世代や地域を超えて学び合い ・みんなでつくりあげるまち ・わくわくしたまち ・四季が明瞭、季節によってまちの装飾 ・静か！大自然！ 等

②各グループで考えた将来像(キーワード)

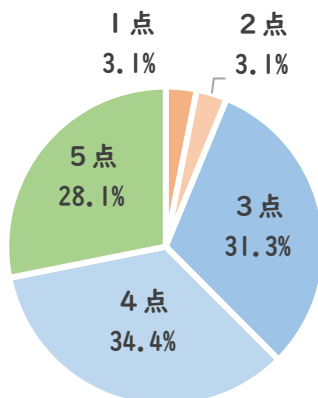
- ・自然豊かな魅力と思いやりにあふれ誇れる田村市
- ・コンパクトシティ、共助、継承と改革、夢をかなえられる環境、自慢できるものがある
- ・投資で発展する街 タムラ
- ・多様性のある、コミュニティがつながれるワクワクした町
- ・田村にあるものを活かして、やりたいこと。若い人を応援する、多様性を認め合うまち～時には強行突破～
- ・笑顔と元気で創り出す 中自然な田村市
- ・「ふれあい」・「安心」・「チャレンジ」の風が吹く 高原都市 田村市



(3) 参加者アンケート調査結果

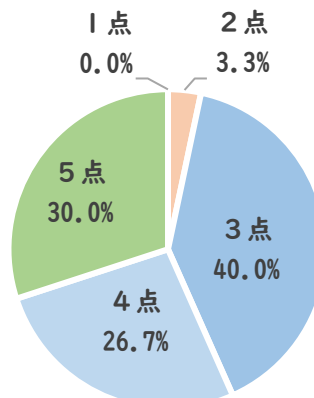
①ワークショップへの満足度

(1点:全然楽しくなかった→5点:とても楽しかった)



②市職員による「各部取り組み紹介」について

(1点:わからなかった→5点:よくわかった)



③参加した感想(一部抜粋)

- ・WSはだんだん意見を出しやすく雰囲気になってきたと思う。参加者も慣れてきたせいかな顔と名前がつながる人が増えてきた。どうしていいかわからない時、助けもあって良い。
- ・私達のグループでは、若い人だけのグループでしたので、新しいこと、若い人を応援して欲しい意見が出て活発な議論になりました。色々な意見が出ましたが、国際交流、LGBT、新しい働き方などに共通することとして、「多様性」がキーワードになっていると思います。
- ・世代をこえての意見交換は大いに意義があると感じました。
- ・ワークショップ、将来像を作ることが目的ではなく、ワークショップ、住民アンケートの意見を今後の10年間、その先の市政、田村市に反映させることが目的だと思うのでよろしくお願いします。
- ・市の施策にこのような形で住民参加できる機会があるのは良いと思う。20代から40代の意見が集められるような形がとれるとよいと思う。
- ・都路行政局の発表よかった。のどかなのはとても良い所なので、良い所は残しつつ、変えていく必要のある所も多いなと感じました。
- ・職員の取り組みはもっと簡略化、個人のレベルアップをした上で行うほうが良い(分かりにくい)。

7 第4回WS (10/3)

(1) 実施概要 (P2 より)

第4回	テーマ:	SDGsとは?【国立環境研究所様より講演】
	目的:	「SDGs」について学ぶ、分野別の課題や取り組み検討に向けた視点の共有
	実施内容:	①国立環境研究所様より講演 ②国立環境研究所様の運営によるグループワーク ③次回予告
	計画への反映:	次回以降の分野別の課題や取り組み検討に向けた事前学習

(2) 実施結果 (一部抜粋)

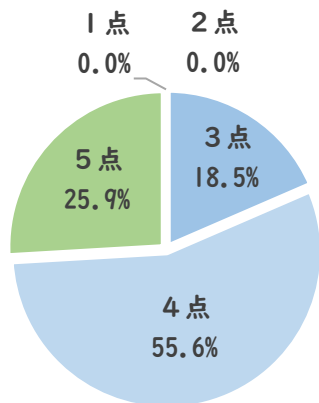
目標	取り組みのアイデア【相乗効果を生み出す目標】
8 働きがいも経済成長も	・田村市専用配達サービス（配達を通じた人とのつながり）【目標3】 ・SNS活用【目標9】 ・自然を生かした観光モデルコースの作成【目標15】
11 住み続けられるまちづくりを	・近所同士のつながり【目標3、17】 ・防災訓練、(各町の)ハザードマップ【目標4】 ・災害の対策、緑を増やす目的などで木を植える【目標15】
3 すべての人に健康と福祉を	・男女の育休【目標5】 ・なるべく自動車を使わず、公共交通機関などを使用する【目標7】 ・地域住民とのコミュニケーションの場【目標17】
15 陸の豊かさも守ろう	・学生による間伐材を使った交流・宿泊施設の建設【目標4】 ・市の木を使って商品開発【目標8】 ・エコバック、My箸、皆が自由に使える袋【目標12】
12 つくる責任 つかう責任	・ゴミの分別方法を教える、リサイクル教室の開催【目標4】 ・フードロスがなくそう、エコレシピの提案、廃油回収【目標7】 ・市内飲食店共通のテイクアウト用容器の使用【目標8】
4 質の高い教育をみんなに	・スポーツによる健康増進とコミュニケーションの広がり【目標3】 ・田村に根付く質の高い産業を牽引する人材を育成【目標9】 ・国際化社会に向けての英語教育の更なる促進【目標17】
10 人や国の不平等をなくそう	
2 飢餓をゼロに	・農業体験【目標4】 ・遊休農地の活用・解消【目標11】 ・地形を生かした農業【目標13】



(3) 参加者アンケート調査結果

①ワークショップへの満足度

(1点:全然楽しくなかった→5点:とても楽しかった)



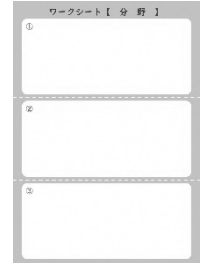
②参加した感想(一部抜粋)

- ・農家の持続をどうするか大きな問題だと思います。農家で生活出来る体制をどうするか。
- ・大人も子供も考えるということが重要なんだと思います。
- ・SDGsの取り組みはいろいろな分野につながっていることを理解した。
- ・SDGsを深く考えるきっかけになり良いと思います。大事なことは継続すること、意識をさせることだと思います。
- ・大変勉強になりました。新たな事業を始めるためのいいアイデアを得られました。
- ・初めて参加したけど緊張することなく参加できた。SDGsの事も深く学ぶ事が出来た。
- ・あまり考えたことのないテーマでいい経験だった。
- ・SDGsはじめての事でよくわからなかった事もある。
- ・SDGsの必要性を知るきっかけになりました。壮大な話に感じてしまうので、地域、自分の生活にどうやって落とし込んでいけばいいのか踏み込んだワークショップもしてみたいと思いました。

8 第5回WS（11/7）

（1）実施概要（P2 より）

第5・6回	テ ー マ：	「田村市」を見つめてみよう
	目的：	市民が感じている課題や今後必要な取り組みの抽出
	実施内容：	①ワーキングチーム職員より各分野のテーマ（説明の中で現状・課題に言及）を会場全体に説明。 ②説明を聞いたうえで、各分野で設定したテーマ（3～4つ）について、グループで自由に意見交換をする。右のワークシートはメモや意見のとりまとめに使用。 ※各回の分野については、第5回は「コミュニティ・行政経営」/「住環境」、第6回は「産業振興」/「学校教育・生涯学習」/「健康・医療・福祉」
	計画への反映：	基本計画策定の基礎資料とする



（2）実施結果（一部抜粋）

①住環境

話し合いのテーマと意見

・快適な居住環境のためのまちづくりとは？

- ・買い物等の利便性が高い
- ・定期的に危険箇所について話し合う場を設ける
- ・「歩きやすい町」にしたい。生活圏として歩く道が狭い。
- ・交通手段の確保（道路整備、電車、バス、らくらくタクシーの利活用）

・ごみの分別を徹底するために市民の方に対してどのような取り組みが必要になるか？

- ・ゴミ分別マイスターや分別のチームを作って、ゴミ分別のやり方をサポートする
- ・分別したその先を知る（処理工程、時間、人件費）
- ・子どもに分別をさせるイベント→親も学ぶ
- ・田村市公式 LINE を普及させる

・市民の方に「防災」（自助・共助）の意識付けをするためにはどうしたらいいか。

- ・地震疑似体験等を通して、身をもって危機意識をつける
- ・小学校単位や地域単位で防災訓練を実施しては。
- ・地域の認識共有（避難先、障がい、高齢者の存在、約束事など）
- ・災害の体験を伝えて行く必要がある。

・移住者を受け入れる側の地域としてやるべきことは？

- ・どんな人がどんな理由で移住して来たか知ることができれば、地域として関わりやすいサポートしやすい
- ・フリースペースの設置（例、チャレンジショップ）
- ・事前にどういったコミュニティなのか情報発信するべき。
- ・移住者への親切的な気遣い（防災の案内等）

②コミュニティ・行政経営

話し合いのテーマと意見

・地域活動の参加者を増やす方策は？（盛り上げる方法など）

- ・イベントを開催し、より多くの人に地域活動への興味をもってもらう
- ・若年層と親世代で協力して行い、徐々に世代交代を促す
- ・地域活動に参加する機会や方法がわからない（特定の人しか関われない）
- ・地域活動の情報がキャッチできない。

・田村市に興味を持つ方を上手に取り込む方策は？

- ・コミュニケーション（対話）をする機会を増やし、市民一人ひとりが地域を知るきっかけをつくる
- ・他地域の取り組みを知る（自分の地域に活かすため）
- ・市民に地域の課題や改善すべき点をあげてもらい、実際に解消することで魅力を増やし、興味と信頼を得る。
- ・型にハマったような発信の仕方ではダメ。行政のプライドを捨てて、とんがった発信をする！

・市民（利用者市民・負担者市民）等との合意形成を図るには？

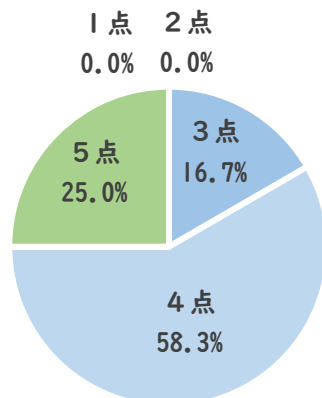
- ・使用していない施設を有効活用する→地域住民に使用していただく→美術館として使用する（展示関係は多くの人が楽しめる）
- ・地域コミュニティの場として施設減は慎重であるべき
- ・運営者と周辺住民との連携
- ・他市町村の実例を参考に再利用



(3) 参加者アンケート調査結果

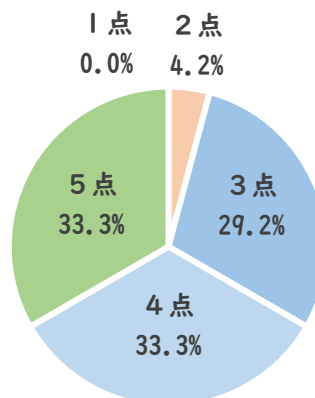
①ワークショップへの満足度

(1点:全然楽しくなかった→5点:とても楽しかった)



②市職員による「取り組み説明」について

(1点:わからなかった→5点:よくわかった)



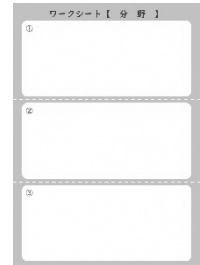
③参加した感想(一部抜粋)

- ・話し合いが盛り上がってきたあたりで時間切れだった。時間に対しテーマが多かった。
- ・各グループのファシリテーターの方々がしっかり議論をリードしてくださるようになり、多くの意見が出されるようになってきたと思います。残り2回はさらに深まりのある意見交換ができるのではないかと思います。
- ・若い人の意見を聞くことができ、非常に参考になった。
- ・あらためて田村市を見つめなおすことができてよかった。
- ・現状の取り組みを知るだけでなく、幅広い世代の方からの意見を聞くことができて大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・自分の考えを聞いていただきありがとうございます。
- ・勉強になりました。
- ・話し合っても答えはすぐに出ない。継続していくことが大事である。

9 第6回WS (11/28)

(1) 実施概要 (P2 より)

第5・6回	テ ー マ :	「田村市」を見つめてみよう
	目的 :	市民が感じている課題や今後必要な取り組みの抽出
	実施内容 :	①ワーキングチーム職員より各分野のテーマ（説明の中で現状・課題に言及）を会場全体に説明。 ②説明を聞いたうえで、各分野で設定したテーマ（3～4つ）について、グループで自由に意見交換をする。右のワークシートはメモや意見のとりまとめに使用。 ※各回の分野については、第5回は「コミュニティ・行政経営」/「住環境」、第6回は「産業振興」/「学校教育・生涯学習」/「健康・医療・福祉」
	計画への反映 :	基本計画策定の基礎資料とする



(2) 実施結果 (一部抜粋)

①産業振興

話し合いのテーマと意見

・後継者、担い手不足問題【農業】

- ・体験ツアー等を通して農業に触れ、自家消費農業から増やしていく。
- ・農家個々人が悩んでいる具体的な問題の吸い上げができているか疑問
- ・ブランド力が弱い（田村市といえば！という作物を作る）
- ・農業を知るきっかけ作り

・担い手不足や廃業を阻止するためにどのような取り組みが必要か？【産業振興】

- ・経営者向けの研修、講習の開催
- ・単に保護するではなく、投資させることで強みを生み出せる
- ・市外に行った地元出身者の「Uターン」をねらう。
- ・そこにしかないものがあればSNSで発信する。

・これからの田村市における観光はどうあるべきか？【観光振興】

- ・地元から観光施設を挙げてもらい、市民参画の施設巡りイベント計画・実施。
- ・画像等を用いて誰しもがイメージしやすく、行きたくなるような周知をする。
- ・ここに来ると落ち着く、ほっとするというような雰囲気づくり→ex. 健康視点
- ・観光する中で、ウォーキングする中でちょこちょこ地元のものを食べる場所があると魅力的！



②学校教育・生涯学習

話し合いのテーマと意見

・遊休施設（廃校等）を有効活用するには？

- ・地域の特産物を使用したカフェとして活用する。
- ・ある期間貸し切りにして、自由に使ってもらったり、宿泊をできるようにする
- ・学校になじめない子のフリースクール、メンタルに配慮した施設
- ・学校が統合されてしまうことで子どもたちも地域の人もこの誰か分からなくなる。

・地域全体で子どもたちを教え育てるためには？

- ・体験授業を増やす。（農業、獅子舞等）
- ・学校では教わらない内容が学べる機会をつくる。
- ・学校等で伝統文化の学習＆発表をする。
- ・勉強を教えるなど地域の学び場としての場所を作る。

・スポーツ・運動に関心のない人や苦手意識がある人が、少しでもスポーツ・運動に興味を持つようになるには？

- ・町・区対抗の運動会を市内全町村で行う。
- ・運動器具のレンタルができるようにして気軽にできるようにする。
- ・行政運営でなく、市民全員が企画運営できる運動会だと、一体感が生まれやすい。
- ・コミュニケーションの場や遊びの延長として誰でも楽しくやれるよ！ということアピールする

③健康・医療・福祉

話し合いのテーマと意見

・社会で何かを決める場合に、女性と男性が同じように参加したり、リーダーになったりできるようにするにはどうしたらよいか？

- ・男女以前に、リーダーとなれる人材をつくる教育をしていくべき。
- ・幼いころからリーダーになる経験を作る
- ・この人はこれができる、こんな考え持ってるよという人間としての特徴や能力で人を見る。
- ・自分と違う考え方を尊重することから

・安心して子育てができる効果的な支援施策の検討

- ・高齢者が元気で長生きできるような取り組みをすることにより、間接的に子育て世代への支援となる。
- ・安心して、かつ他のこと交流できる施設が欲しい
- ・今の子育て世代が困っていることは何か？それを知る場がほしい。忙しい人が多い。
- ・親同士で悩みを共有できるスペースが欲しい

・肥満抑制に効果が期待される取り組み

- ・広報や健康教室のようなものを開催し、健康について指導、教育の場を作る。
- ・学校の授業で、食や健康について教育をすることで、自分の体について考える習慣をつけるようにする
- ・生涯学習の分野のスポーツイベントなどと共同でする
- ・体質にあった健康法を知る場の創出

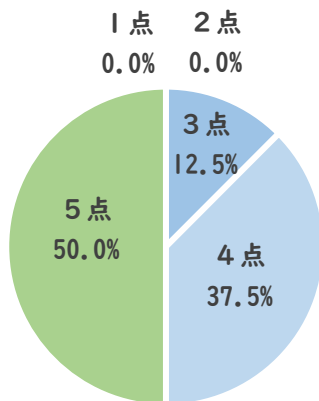
・自分たち（市民）が健康でいるためにはどのようなことが必要か？

- ・旬の食材を届ける仕組みかイベントがあると良い
- ・健康について具体的な形で目標達成があれば良い。ex. 健康アンバサダー
- ・生きがい・趣味をつくる・場をつくる。
- ・車なしでも生活できるシステム（宅配や移動販売など）があれば良い

(3) 参加者アンケート調査結果

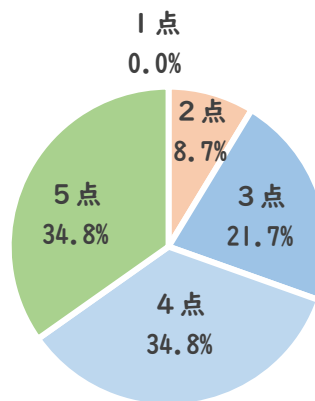
①ワークショップへの満足度

(1点:全然楽しくなかった→5点:とても楽しかった)



②市職員による「取り組み説明」について

(1点:わからなかった→5点:よくわかった)



③参加した感想(一部抜粋)

- ・個人で気をつけて行うことと、市でできることなどがあって話し合いが難しかった。
- ・田村市についてもっと知りたいと思った。
- ・テーマを増やして時間をもっとかけるともっとアイデアが出るのではないかな。田村市のことを市民に考えさせる取り組みは良いと思うので、別な機会にも市民参加型ワークショップを展開してもらえると市民の行政に対する理解が深まるのではないかな。今回のワークショップを含め、取り組み内容をもっと市民に周知するべきではないでしょうか。
- ・出された問題解決に市職員の頑張りに市民も協力し合い、良い田村市に成る事を切にお願い致します。
- ・一つ一つ課題をクリアに。
- ・発展のために話し合うことのできる有意義な時間でした。
- ・職員の方に進行していただけたのでより充実した話し合いになりました。ありがとうございました。
- ・色々な意見が飛び交ってよかった。
- ・違う考えが聞けて良かった。社会は自分一人ではないという事を感じた。

10 第7回WS (12/19)

(1) 実施概要 (P2 より)

第7回	テ ー マ :	私たちには何ができるだろう？
	目的 :	市民のまちづくりへの意識醸成、WS の振り返り
	実施内容 :	①これまでの WS を振り返りながら、グループごとに決められた1分野について、自分たちができることについて意見を出し合う。 ※第1回～第6回までの意見を事務局で分野ごとに事前に割り振り、オリエンテーションで振り返り ※分野については、第5～6回の5分野を各グループに割り振り。
	計画への反映 :	市民の役割として基本計画に記載

ワークシート【 分 野 】

【第1回 WS】この分野のまちのよいところを思い出して記入しよう

事前に記入
(当日追加記入可)

【第2回 WS】この分野に関わるまちの課題を記入しよう

事前に記入
(当日追加記入可)

【第3回～第6回 WS】この分野に出来ることを記入しよう

事前に記入
(当日追加記入可)

その他でも、私たち（市民・地域・関係団体・事業者）は……

当日、各グループで記入

に記入願います。

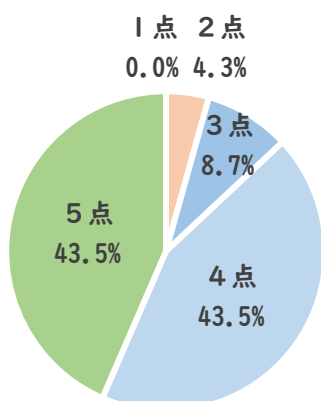
(2) 実施結果 (一部抜粋)

次期総合計画の分野	私たちができること
産業振興	・産業の更なるブランド化（生産者・事業者・行政それぞれが役割分担） ・（田村市の）目玉となるものを作り、情報発信・PR をする ・小中学生にアンケートし、農業体験や職業体験（市内外含む）をする ・地域のネットワーク形成やコーディネーターの育成
学校教育・生涯学習	・特別講師として市民参画（技術・能力がある方を教育の場へ）。 ・体験授業、交流授業を増やす ・知識・個性を活かす場をつくる、人材発掘 ・資格支援サポート（女性の再就職支援）
健康・医療・福祉	・四位一体改革＝市民・地域・関係団体・事業者がつながる健康・医療・福祉 ・趣味を生かしたボランティア活動の実施（読み聞かせなど） ・退職後のコミュニティを構築する ・福祉施設と幼稚園・こども園との交流機会の創出
住環境	・親子や友人でゴミ拾いに参加し、その後にマイ箸・エコバッグを作るイベントを開催（ゴミ拾いで終わらずに、学びにつながる） ・地域の奉仕作業に子供も参加させて、地域美化の意識付けをする ・地域の人たちとのコミュニティの場を設ける（私生活の困り事や防犯情報の共有など）
コミュニティ・行政経営	・1日10分、市のことを家族で考える日をつくる ・思ったことを言えるような場所、拾い上げる仕組み ・地域のお祭をローテーションで開催する ・やりたい人たちがつながるきっかけ ・住んでいる地域のコミュニティだけでなく、田村市全体で考える

(3) 参加者アンケート調査結果

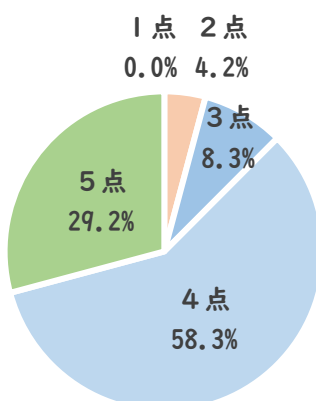
①ワークショップへの満足度

(1点:全然楽しなかった
→5点:とても楽しかった)



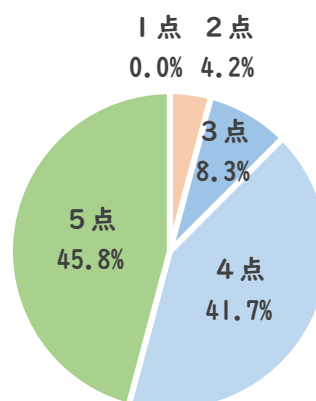
②市への愛着や誇り

(1点:全然感じない
→5点:とても感じている)



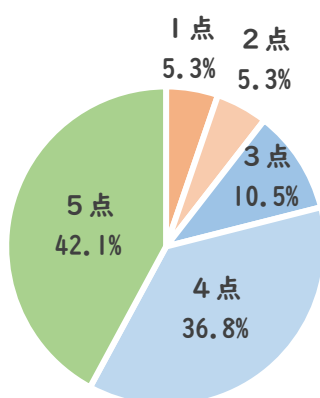
③まちづくりへの関心

(1点:関わりたくない(関われない)
→5点:積極的に関わりたい)



①今後の「市民ワークショップ」への参加意向

(1点:参加したくない(参加できない)
→5点:積極的に参加したい)



④ワークショップ全体を通した感想(一部抜粋)

- ・様々な考えを知り、共に明日の田村市を話し合うことができ、大変有意義なWSでした。機会がありましたらまた参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。
- ・田村市に興味を持つことが出来た。空き家が多いから違う何かのものに変えればさらに良くなると考えた。
- ・行政の方とともに話し合うことで市の考え、市民の考えをぶつけ合えたことが良かったと思う。これだけ回数を重ねて考えた提案をぜひ市民に浸透させてもらいたい。市民が考えることが重要だと思った。ワークショップはやる側も参加する側も大変だが、大変な分、良い成果が出ると思う。
- ・色んな課題があるなか、「イベント、祭り、国際交流」田村市独自のものが必要だと思いました。多様性、田村市外国在住の協力。
- ・中途半端かな。もう少し深い話をできればと思います。
- ・多様な職種、多様な世代の方々のご意見を伺えて大変勉強になりました。市職員の方々の思いを伺うこともできて大変頼もしかった。